

オリーブの樹

第152号

2020年12月10日

شجرة الزيتون

早期釈放！重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 秋の歌 重信房子
P 3 独居より 重信房子
P 14 トランプ時代からバイデン時代へ 重信房子
P 18 関西の政治運動情況 岩田吾郎

秋の歌

重信 房子

独居よい 8月5日~11月9日

逮捕から20年目の11月8日を迎えました。

大爆発ベイルートの街思い出も抉りとられて壊されてゆく
空笑う 10・21 反戦デー繋がりあうこと求めた時代

棺並ぶガザの葬列今日もまたただ古里に帰りたかっただけ
贈われず奪われ続けるパレスチナ UAE バーレーン次はどの国で

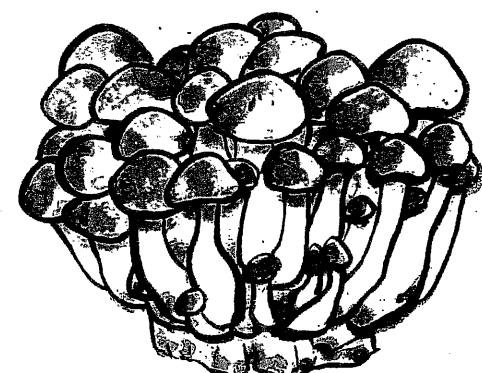
群衆に密む私服の無線機を奪いて軒昂若き日の君逝く

ひらり落つ「國家と革命」に挟まれた一片のビラ一九六九年

蟬の声聴かず迎えしコロナ禍の猛暑の溽暑に女郎花咲く

吾亦紅露に濡れ咲く朝の道成りたい自分に成れただろうか

鉄格子に入道雲と青空の現いて遅き梅雨明けとなる



重信房子

8月5日 作業工場から戻って入浴。シーツ交換と汗一杯のところ交付物が届きました。

今、点呼のあとで手紙類を受け取り、読みはじめたところで、処遇課から追加の電報が来たのでと届けてくれました。「今日ベイルートで大きな爆発があった。7時のニュースを見ればわかるでしょう」と「電報」の訳を教えてくれました。電報はYさんからで「メイは無事です」との文面です。とてもありがたい配慮で処遇の人にもYさんにも感謝しています。

手紙はリベラシオンのIさんから7月10日に「はじめに」から「パレスチナ解放闘争史」全14章を全文WEBアップして下さったとの知らせです。「文字数37万字、A4で335ページ」で何人かの友m人に案内を送って下さいました。Iさんの感想も記されています。「従来の『日本赤軍—PFLP』中心では無く、PNC、PLOの変遷の検証を中心に、パレスチナ・アラブ民族運動との関係で検証していること（親米、親ソ、左右を問わず、何らかの関係がある事）です。また歴史的経過の各国、各組織、人物も詳細に書かれ、検証されています。強いていえば、20世紀の「民族解放・社会主義」が失効して、中東では「民族解放・イスラーム主義」となっており、かつ「反帝国主義」の最前線にあります。この現実はアラブ社会主义（バアス党）『ML主義』（PFLP等）の検証、『社会主義のルネッサンス』も必要と思います」とあります。

お盆休みに全般を読み返し、校正が落ちてるものなどチェックするつもりです。また、ありがたいことに「パレスチナ解放闘争史その2」（オスロ合意後トランプ時代まで）の描き下ろし文書あると知っているので、引き続き入力・アップ下さるとの提案もありがたく読んでいます。私の「新しい生活様式」で文章・校正作業にとれる時間は減りましたが、「自己改善目標」の一つでもある中東問題の知見を深める意味でも積極的に進めたいと

重信房子

Aさんから暑中見舞いのお便りを頂きました。Aさんは私の一回り上のトリ年だそうですが、大元気です。「アイヌ新法が成立しましたが、あくまでも行政の施策・制度を定めたもので、アイヌ民族に先住権を認めたものではありません。」とAさんが提案して「先住民族アイヌのいまを考える会」を発足させ、展示会を開くとのこと、御活躍です。アイヌに学びメントを総括しながらアイヌ民族の闘いを考えていた佐藤秋雄さんが生きておられたら、今もアイヌ民族の先住権を求め続けるはず… …とAさんの便りを読みつつ思いました。

“米寿の友アイヌ民族先住権認めるべしと新たな闘い”

今7時ニュースでレバノンの大爆発のニュースも出ました。当局の硝酸アンモニウムなどの管理ミスらしい。100人超が死に、5000人超が負傷とのこと、痛ましい。レバノンも海外からの帰省で徐々にコロナ拡大が始まっていると、昨日メイの手紙受け取り知りました。デフォルトで破壊された経済の上にコロナ、爆発と銀行も送金停止中のベイルート。岡本さんやオママイヤ、メイの無事を祈っています。NHKニュースで示した場所はの方ですが、2350トンの爆薬威力で爆風激震倒壊のビルが多いようです。友人たち多くいるので心配です。

8月7日 今日は免業「矯正指導日」。今日の教育プログラムは、13時から1時間8分のDVD鑑賞し、感想を書くことが義務。このDVDは「PAIX-2(ペペ)のプリズンコンサート」でした。「矯正支援官」にも任命されたペペが、ビデオジヨッキーで語りつつ歌う番組です。Mさんからペペ300回記念の本「逢えたらいいな」も、ペペプリズンコンサート500回記念10周年の「暁の中②のジャンヌダルク」を送って頂いて、すでに読んでいたので、よりペペの活動を理解しなが

ら、有意義に鑑賞しました。どの歌も、獄生活を過ごさざるを得ない人々にとって、心に響きます。明日から連休。

新聞では、ベイルートの約半分以上の地域に被害が出たこと、死者は137人、負傷者5000人超、240万人の住むベイルートで、30万人が家を失う事故です。黒海沿岸ジョージアからアフリカのモザンビークへと向かった貨物船の積み荷の硝酸アンモニウム。船のトラブルで出航禁じられ、6年前から安全のため港の倉庫に保管されていた、との記事。レバノンは、黒海、地中海、大西洋に抜けるエジプトと並ぶ中東の中継地。デフォルト・デモ（デフォルトした政府の腐敗と増税に抗議）コロナの増加の上に今回の事故です。食料から消費財まで、すべて輸入に頼る国。これから国際援助を受けつつ、どう再建できるでしょうか。米・サウジ・仏などがこれまで資金援助してきましたが、ヒズブッラーの影響が強いのが不満で、支援も滞っています。国の成り立ち、宗派制度が根本的に転換できないと、これまで通り、良くも悪くも「共存共栄」の名の、妥協の宗派合意枠内の生ぬるい機能不全の政治が続いていくでしょう。一番の問題は、これを機に、米・サウジ・旧宗主国仏などが、自分たちの意に沿う勢力を支援し介入し、反イラン政策反ヒズブッラー政策の強化を図り、再びかつてのような国内の騒乱をつくりだしてしまうことです。パレスチナ・シリア難民たちが気になります。

8月14日 今日のニュースで、UAEとイスラエルの国交正常化。「無謀なMMライン」として知られるサウジのムハンマド皇太子とアブダビのムハンマド皇太子のイニシアチブで、イスラエルとの



国交正常化が、とうとう始まったという思いです。近年、揺らぎつつもアラブ連盟諸国は、2002年「アラブ中東和平案」の立場を維持し、「包括的中東和平」の立場をとっていました。つまり、「パレスチナ問題の解決なしにアラブ諸国とイスラエルの国交正常化はない」という立場です。ネタニヤフ首相は、常々それを批判し、アラブ諸国とイスラエルの関係正常化によって、パレスチナ問題も解決できるという立場で、トランプ政権の力をバックに、湾岸諸国との関係改善を求めてきました。実際には米政府の仲介で、イスラエルと湾岸GCC諸国はこれまで反イラン保安共同、軍事諜報技術共同を進めてきました。オバマ政権のイランとの「核合意」に猛烈に反対したのは、イスラエルとサウジ、UAEです。今回のUAEの行動は、トランプ大統領選への援護射撃であり、また、ポストトランプの反イランの中東安保体制を見越した動きと言えます。トランプ政権の下で、イスラエルとの共同を公にすることで、もしバイデン政権が生まれても、中東独自でUAE・イスラエル・エジプト・サウジらの反イラン秩序を作り上げるという意思表示でしょう。このUAEの動きを先駆として、バーレーン・モロッコ・オマーン・カタール・サウジなどアラブ世論、国際世論を窺いながら、国交正常化の流れを加速させようとする傾向は否めません。アラブの富の偏在を、かつては再分配を義務として受け取る側も当然の権利としていました。しかし既に「アラブの大義」の形骸化の中で、これまでの道義や正義は通用しにくいのが実情でしょう。「イスラエルの西岸地区入植地の併合停止を条件に国交正常化」とは、詭弁に過ぎません。UAEやサウジなどは、パレスチナに援助してやっている、という金銭問題にすりかえ、パレスチナ問題に制約されない、反イランの外交路線を益々進めるでしょう。勿論、イスラエルとの国交正常化を阻止するアラブ規模の訴えを拡大させていくことと同時に、反イラン体制の名のもとで、中東の新自由主義化を促進する、こうした権力に対しての変革の闘いと結びつくパレスチナ解放の新しい段階の闘いが求められています。

8月17日 今日までお盆休みです。

8月18日 今日はコーラスがありました。工場作業を2:30に切り上げて講堂へ。建物から講堂に移動するとき10m程外に出るのですが、ふつとする暑さで、ああ、コロナ禍の猛暑だ……と実感。ほんの一時です。冷房の効いた建物で作業していく、環境は整えられている病棟です。講堂入口にギボウシのとても背の高いす紫の花、みごとに咲いていました。フェイスシールドを装着して、広く間をとてコロナ禍初のコーラスです。「夏、外は猛烈な暑さ『海』を歌いましょう！」ともうすぐ88才の先生の見事なソプラノに続いて小学唱歌の「海」、「浜辺の歌」。そしてピアニストの新しい先生が「乙女の祈り」とメンデルスゾーンの「詩人のハープ」の名曲を演奏し、鑑賞させて下さいました。「夏が来れば思い出す」そして「花」でしめくくりました。大声を出すコーラスは気持ちが良い。いつも声を出せないので。

8月19日 昨日はお盆休みに集中して仕上げたパレスチナ解放闘争史の全校正を一応終えて発送しました。当初「パレスチナ解放闘争史」を仕上げたいと思ったのは、公判の時に資料として使っていた中東北アフリカ年鑑で、1920年から5年間初代英國委任統治政府高等弁務官、つまり支配者のハーバート・サミュエルがパレスチナ人たちに信頼されていたような記述に出会い、違和感を持ったからです。調べたらユダヤ教徒。もっと調べたらシオニストの指導者。英國閥僚時代からパレスチナへのユダヤ郷土を工作し、アーサー・バルフォアたち外務省と英シオニストで団交して「バルフォア宣言」を勝ち取る時は、変わり身で閥僚を辞退して、シオニスト交渉団の一員に。そして高等弁務官へ。なんだシオニストがパレスチナをいいように支配しているだけじゃないか……。日本の権威ある機関で出版されている本で、そんな書き方しかなかったのかと、がっかり（75年版でしたが）。パレスチナの側から日本人の人にも伝えないと……と使命感というか、欲求が湧いて、いつか記そう……。と思っていたものです。やつと少し仕上げたにすぎませんが。

8月21日 猛暑続きは昭島も同様です。でも工場も病房も冷房がしっかりと効いていて寒いくら

いです。窓を開けると、熱風が入り込んできます。昨日受け取った資料に、メイのFB（丁度ベイルート爆発直後のツイッターなど）もあり、激しい臨場感が伝わってきます。私たちのすごした西ベイルートのハムラ通りは、破壊はされたが、丁度爆発現場の東側に強固で巨大なコンクリートの建物があつたお陰で、それが壁になって東方のハムラ通りなどは、ダメージが小さかったようです。他43メートルの巨大な穴が空き、どこも建物が見られない写真も。世界中から「ベイルートは再び立ち上がる」と、連帯と支援のメッセージが国連や様々な国の政府からも寄せられているけれど、日本政府のメッセージは見当たりません。カルロス・ゴーンのせい？ 爆発の日は、日中、街に出ても良い日だったので、多くの人が必要物資の買い出しに出ていたようです。爆発時、メイも危険地域のスーパー・マーケットの地下に居たようです。隣のビルは倒壊し、無事だったメイが帰る途中の道、傷んだり破壊されたりしていない建物は一つもなく、倒壊で道も通れなかつたようです。

8月24日 新聞では、欧州などと違って、日本の「DNA検査」が野放しのようです。警察ではDNA型は無罪でも保管。05年の有識者会議で、メンバーは法制化を主張したが、警察庁が「運用は規則で」と主張して法制化されず、そのまま拡大。日本は本当に警察国家。歯止めがありません。その上、コロナ禍の中、強制力行使を求める声も増加の日本です。人民新聞8/5号を見ても、「急増コロナ切り」と、企業は労働者解雇で乗り切ろうとし、外国人や不定期雇用の人々への犠牲を強いています。イスラエルでもコロナ第二波で、イスラエルの出稼ぎ労働のパレスチナ自治区の住民たちを通して、イスラエルから第二波は、自治区でも広がっているようです。政府のコロナ対策への不満で、6月、7月とイスラエルは騒乱のデモ。UAEと国交正常化を果たしたネタニヤフ政権は、西岸地区併合を今のところ中止し、コロナ批判に対応中です。ポンペオ国務長官がUAEやイスラエルを訪問すること。選挙に向けて、更なるイスラエルとの国交正常化をアラブ側に PUSH し、米国内のトランプ支持の福音派の支持をさらに広げたい意図。トランプよりは「まし」なバイデン候補と

言われているけれど、中東の人々は期待していないでしょう。

8月25日 今日工場に出役し、昼食後12時半から作業を開始。13時過ぎ頃呼び出され、廊下に出ると警務課らしい2人の人が、小声で（コロナでドア開放中のため）「警視庁から取り調べがきています」とのこと。またか……。去年も拒否したのに。「取り調べに応じません。よろしくお願ひします。」と伝えて、十数秒で終わりました。去年は何人かのアラブ時代の友人たちにも所在確認風に来ていたようです。もちろん皆拒否でしょう。今回は、何が理由なのでしょう。いつも“平安”を乱され、腹立たしい限りです。

8月27日 今日は出役前に胃の内視鏡検査です。9時から約30分。カメラが入っている時間は15~20分位でしょうか。昨夜はよく眠れず、ちょっと頭痛もありましたが、異常なしを確認できました。ピロリ菌のいない胃は癌になり難いそうです。その後モニター画像を見ながら主治医の説明を受けました。それから胃が落ちてから朝食をいただき、11時40分ころから講堂2Fの運動へ。12時すぎから昼食。木曜は炊事場の床を含む大掃除。いつもより遅れて13時前に作業場にもどり、毎木曜日の「おはなし」（教訓や注意、コロナ、猛暑対策の話でした）のあと作業開始。

8月28日 今日は矯正指導日。今日の教育プランは「情熱大陸『天王寺動物園』」の25分のテレビ番組でした。感想文を記録カードに記入し、他の目標（9目標）も経過や達成、反省点を記入して来週（月）に提出します。提出したカードには担当官と指導官の2人のコメントが記されて戻ります。思い出すのは小学時代の学級日記のように、先生が書き込み励ましてくれるのに似ています。注意点や励ましが記されます。これが全国一律の刑務所の「矯正指導」の一環なのでしょう。

今日は7時の夜のニュースで、安倍首相辞任を伝えています。安倍首相にとって無難な時期に退却を決めたようです。これまでの権力の私物化が、今後河井夫妻公判、秋元公判などで明らかになり、これまでの公文書改ざん、赤木被害者事件、

サクラ・モリ・カケと批判に晒されることが続くのは目に見えており、前回の時と同じ持病悪化で幕引きとなりました。どこまでこの国家主義政治を主権在民の側に、今後安倍時代批判の実現として正せるでしょうか。

9月1日 今日は雨なのか久しぶりに最高気温が29°Cの昭島です。これから秋らしくなっていくのでしょうか。安倍退陣の後は菅を大派閥が推して、変化なしの菅政権が生まれるとか。党員投票、大会なしの二階イニシアチブに大勢は乗ったという記事。モリカケサクラを共同して援護してきた菅とは……。退陣演説で安倍首相急上昇の支持率とか。同じ政治が続くのはやりきれません。総選挙で信を問うべきでしょう。

また「全共闘白書」で一票の投票行動を大切に行使すべき、と主張している人がいましたが、ほんとうに。昔は体制内改革に価値を置かず、投票しなかった全共闘世代ですが、変化を求める一票が広く行使されることを願いたいのは、私ばかりではないようです。

9月2日 記者の杉山さん（共同社会部）からお便りで、「日本赤軍私史」を読んだ感想が寄せられました。「世間一般に流布されている残酷なイメージしか持てずにいました。しかし、本を読み考えを改めています」とのことです。「60年代の闘いの中では“民主主義”を否定してきた。……パレスチナの戦いの姿は『民主主義の徹底こそ社会主義を生む』という考えにつながっていった」……

「自分の足元から『民主主義の徹底』を通して国際的に連帯し、可能性のある日本に変えたい」など「私史」の記述が、今の自分より若い時に海を渡り、苛烈極まる体験を経て、たどり着いた大きな考え方の変化に大変興味があると杉山さん。そしていくつかの質問が添えられています。

私自身は、当時は、失敗・敗北の赤軍派の中で何とか打開したいという思いで海外をめざしました。世界は本当に私たちが考えているようなものなのか？海外への不安などではなく、人間同士どこに居ても理解しあえると楽観的に出発。でも、パレスチナ革命との出会いは「付け焼き刃」のような自身の赤軍派理論や路線では通用せず、自分自

身の生まれてから育んできた実存を抉り再構築していく過程でした。未熟でも自分に立脚して、父の影響を受けてきた正義を実現したい思いや、中学、高校、大学時代の自分から主体的個人としての再出発。それはただ素朴な正義感や探究心、だれもがあの時代に持っていた想いと共通しているものです。父に言わせれば“君が代の安けかりせばかねてより身は花守となりけんものを”と幕末の国学者の志士平野国臣の一首を引いて、この国が安らかでないから、花を愛する花守を望むように娘が行動を起こすようになったにすぎない、と援護していたのを思い出します。武装闘争の日本での過った路線を肯定してパレスチナ武装闘争——不条理な祖国喪失に全人民、民族がパレスチナ解放建国をめざしている人民の選んだ武装闘争——と共に闘い暮らし、自分たちの足元のない人々の居ないあり方を問い合わせながらたどり着いたのが、「民主主義の徹底」という路線につながりました。「民主主義」は立場によってまったく異なるものが描かれますが、人民主権を主張する時、やっぱりこの概念で括るしか言葉が見当たらなかつた当時を思い返しています。日本の現実では「主権在民」の徹底を訴えたいところです。益々国家主義がポスト安倍でも継承されているし。

また杉山さんは日本で世間の日本赤軍に対する謗りについてどう考えているのかと、問うてきました。日本の歴史や社会の現実、国家権力との60年代以降の敗北の攻防の現実として、そしてまた私自身の数々の過ちの結果として、それは理解しています。一方でパレスチナのための闘いに就いた仲間たちは「テロリスト」としてではなく、パレスチナの英雄的な戦いの戦友として称えられて、今も政治亡命が許可されて生活しているのもまた現実です。もちろん私自身は、自分も仲間も「テロリスト」と考えたことはありません。「正義」や「正しさ」は一つではなく、世界各地の歴史に根差した条件で判断されています。こうした多様な世界の現実をふまえながら、今後も日本社会と向き合っていきたいです。

年相応に健康にもあちこち支障がありますし、2008年以来癌が発見されて、4度の手術で9つの癌を摘出し、まだ生きているのは、友人たちの変わらない支え、医師やスタッフ、弁護士、家族の



支えのおかげです。海外では何度も捨てては拾ってきた命をもうひと踏ん張り大切にして、友人たち、家族と乾杯したいと思います。そんなことを考えました。

9月7日 台風被害はどんなでしょう。今日は昭島も雨。夕方、9月3日付のIさんのお便り。レバノンのトークイベントを知らせてくれました。「レバノンに愛を！ 知られざるレバノンを語る、4日間でんこもりのトークイベント」がネットで8月24日～27日まで行われた、とのこと。このオンライントークイベントは、レバノン在住の日本人たちが企画したことで、8月24日はメイも「レバノンと日本の社会的伝統の違い」を語ったそうです。「政治以外の珍しいスピーチで、楽しそうでした」と、Iさん。レバノンの大爆発の復興に、精神的物質的支援が、世界各地で続いている。これもきっと、日本人たちのそんな想いの企画でしょう。いい企画です。日本とレバノンの学生の各々が、レバノンを語る、料理、小説、宗教と難民、映画など4日間のどのテーマも興味深く、学習したいものです。

今、日誌を記しているところにN和尚からの電報。現思研初期メンバーの「新井進兄逝去」との知らせ。8月28日に……。ああ、再会の仲間がまた、先に彼岸に旅立ちました。ニックネームは金魚。いつもUさんと民青系の学生たちに、先頭切って論争していた姿、青学の恋人と活動と、大忙しの金魚。端正な姿の新井クンが浮かびます。ご冥福を祈るしかありません……。

9月11日 Uさんの手紙に「懲役に出るというので案じたが、起き上がり小法師のダルマ製作、

学校の工作的時間みたいに楽しんでいて何よりです」とあります。「僕のわずかな体験では、50人から60人位の工場で(ナショナルのラジカセの組み立て)のラインで、私語はもとよりよそ見もダメで、看守は怒鳴りっぱなし。男ばかりの懲役はパンツまで全部着替えるので、全裸のスッポンポンになって30センチ位の仕切りをまたいで、その時間両手で万才をして口を大きく開けチェックされるのです。『カンカン踊り』といいました。人権問題監獄法の時代です。」とあります。こちらも作業は楽しいですが、規律は少々厳しいです。9時出役から3時帰房までに20回近く身体検査があります。トイレに行く時、出る時と部屋の狭い一角のトイレでもそうなので、それも数えるとそうなります。「明治監獄法」と「平成監獄法」はその矯正イデオロギーにおいて変わっていませんが、「平成監獄法」では第一条に人権を明記しています。物理的「暴力指導」の禁止と個人裁量(温情)も禁止されたのが「平成監獄法」です。

日本は国連の人権基準に違反し、毎年批判・勧告を受けています。第一に、欧米のような合理主義の方が「矯正主義」より人権を重視します。報応(法忘)主義で個人の人格、考え方、プライバシーは尊重され、「判決に基づいた刑に服すること」のみが求められます。個人の暮らし方は自由で、日本のように軍隊調の一拳一投足の監視や懲罰はありません。「矯正」ではなく本人の意思によるカウンセリングで更生を支えるというやり方です。そして、第二に、懲役労働には対価を支払います。韓国でも労働者の平均賃金の8割位。こうすれば出所後の生活資金を持ち、人生の敗者復活が可能です。第三に、刑務所医療は法務省ではなく厚生労働省へ移管されるべきです。欧州はそうなっています。それによって国民健保が受刑者にも適用されること。国連人権理事会で日本の刑事施設などについて指導・改善を求められている点は、このような点を抜本的な司法改革として進めること抜きに成し遂げられません。その方が受刑者はもちろん働く職員たちにとっても良い環境になるはずです。

9月12日 7時のNHKニュースで UAEに続いてバーレーンもイスラエルと国交正常化で合意。

米国の9・11の日に、バーレーンの後にスーサン、オマーンなどサウジと合意の上で続く可能性があります。サウジはイスラームの「二聖都の守護者」を自称しており、イスラーム諸国の反応を見つつ、実質は米中介でイスラエルと共同していながら公的な「国交正常化」はゆっくりと進めるでしょう。「反イラン包囲秩序」の名でアラブ諸国とイスラエルの関係改善を求めるトランプ政権の選挙対策としても、パレスチナは再び犠牲を強いられ続けています。どの国も米国の財政支援、政治支援を必要とする分、パレスチナにとっては厳しい時代を更に迎えています。

9月16日 9月は「オスロ合意」「サプラシャティーラ虐殺」「第二インティファーダ勃発」のパレスチナ民族に刻まれた日が続いています。それと国連総会での9月下旬のアッバースのメッセージ。UAE、バーレーンの外相をトランプはホワイトハウスに招いて、ネタニヤフ共々選挙イベント「国交正常化セレモニー」を華々しくやって「反イランの平和」を自画自賛しているでしょう。緊張を高め、危険を増大させ、パレスチナを排除した国交正常化を他のアラブ諸国に強いるでしょう。

このUAEイスラエルの国交正常化に水面下で暗躍したのは、ダーラン元ファタハのリーダーという話があります。彼はイスラエル・米・英の協力で2007年にガザのハマース制圧を計画。2006年政権をとったこのハマース潰し作戦は、情報が事前にハマースに入り、逆にガザを制圧されました。その後アッバースと権力闘争を繰り広げ、双方がお互いをアラファト暗殺の片棒を担いだと罵り合いをしてきました。

パレスチナ自治政府からは、欠席裁判有罪でダーランは、ずっとUAEに亡命し、拠点にしています。アッバース派の情宣かもしれません、UAEとイスラエルの国交正常化のことは、モサドとダーランの共同との噂。それはどうか知りませんが、こうした者政治家たちこそ去り、新しいリーダーを育ててほしいと願っています。

9月20日 作業の合間に「月光64号」の学習。9月の題は「奏」らしいです。こんな一首“彼岸花友の自裁に泣きながらサックス奏でる君の背筋

ゆる”もうすぐ彼岸。もう彼岸花は咲いているでしょうか。9月のこのころ、インティファーダに連帶して(2000年9月28日にアルアクサー・インティファーダが始まる)日比谷公園、かもめの噴水のところで、檜森さん、松田さん、Oさんらが「パレスチナに献花を」と、すわりこみ、Oさんがサックスを奏でていたのを思い出します。もう檜森さん、松田さんは彼岸の人。そんなことを思い出しつつの一首です。

9月24日 夜 9月20日付のTさんからのお便り受け取りました。案じていた台風による九州の大震、洪水、熊本人吉は甚大な被害があったが、宮崎ではそれ程でもなかったとのこと。昔、昭和30年代は宮崎県は「台風銀座」と呼ばれると、社会科授業で教わるほど台風のコースだったようです。現在は沖縄から九州西部を抜けて韓国、朝鮮のコースに変わっていることです。私の刑務作業に、Tさんは房に独りでいるよりも外で多くの人に触れあう方が、精神的にも肉体的にも良いし、それを喜んで下さっています。自分の運営している老人施設でも、人々と触れ合う大切さを皆の表情からも実感される分、積極的に受け止めてくれています。コロナで施設が閉鎖中はやはり皆再開を望み、やっぱりやりがいがあったと再認識しておられます。「でも事業主体が責任を負うので体温測定、手洗い、消毒、換気、密にならない空間作りと気を遣ってやっています。健康マージャンは不要不急の最たるものですからね。世間の目もちょっとぴり意識しつつ……」と、有意義いきいきです。

9月28日 今日はこれ以上ない程の秋晴れ! 雨も昨日上がり、久しぶりにベランダ運動で外気にあたり、土の匂いを嗅いで深呼吸。

今日は、9・28 インティファーダ記念日。あの2000年頃からシャロン、ネタニヤフのリクード政権が「オスロ合意」や和平交渉の約束を無視しついにネタニヤフの野望どおり「パレスチナ和平」なしにアラブ諸国との国交正常化の道にトランプの力を得て入っています。厳しいパレスチナ・アラブ人民のこの現実はパンデミック到来含めて、「金と軍事力にものをいわせる支配」として続き

そうです。戦略的に耐え、切り拓くチャンスをつかむために”統一”です。パレスチナ人同士、アラブ・中東諸国の人民同志、非・反シオニズムのユダヤ人とも強調・統一して政治戦線を育ててほしい。反イランのトランプも、毎週辞任デモに直面しているネタニヤフも、野心的すぎるサウジのムハンマド皇太子のプランも、アラブ中に広がり始めたパンデミックでのダメージも、新しい兆しを育てるかもしれません。尚更に人民同士の連携を。病院などインフラ含めて破壊されたままのレバノンも気がかりです。

今日は私のバースデイも迎えました。「後期高齢者」と変なネーミングの時期に入りましたが元気です。一輪のりんどうと野菊に、家族や「さわさわ」や「土曜会」や手元にある写真を出して、みんなと交流しつつバースデイのつもり。獄中にいるとどうしても視野が狭くなり、対象化されぬままにイメージが肥大化する分、自己中になります。戒めつつもう二年弱のその後のイメージを考えると、あれもこれも今やっておかねば……と描いてしまいます。何をするにも自分でできない環境にある分、友人たちに負担を強いてしまいます。みんなに支えられていることに感謝の日、振り返る日です。

10月2日 菅首相、杉田、和泉の官房長官時代のトリオの陰険なやり方。(杉田は安倍政権で九条の解釈改憲、自衛隊行使容認を認めなかつた、山本庸幸内閣法制局長官に引導を渡して駐仏大使小松一郎にすげ替えて、「安保法」を通した「立役者」。和泉は、前川喜平スキヤンダルを杉田と説壳にリードして、前川氏につきつけた人物。不倫官僚として名高い。この3人が、キーパーソンの排除、登用を繰り返して権力を固めていたらしい)が、もう表に出て強権ぶりを露わに。民主主義ではなく警察国家(ファシズム化)と向かっているようです。「日本学術会議」の推薦105人のうち6人の排除、説明もなしに。6人は政府の政策(安保法・沖縄・共謀罪など)に反対していた過去が、排除の原因と思われています。歴代の首相は、異論者を含めて任命してきたのに、菅になって反対意見封じの民主主義の否定。山本庸幸氏によると、菅は首相直前のTVで「政権の決めた政策の方向性

に反対する幹部は移動してもらう」と、法務省官僚について発言したと、昔の姿勢を「司法の独立性の軽視」と危ぶんでいました。司法どころか、民間人の学問での異論も封じるすさまじいやり方。それも「国民のため」「法に反しない」と開き直りつつ、ソフトに強権。大変な時代を感じます。

10月5日 巷は秋の気配だろうか。今日も外気のベランダ運動。でも何も見えない。空気は暑すぎず寒くないので、もう秋だけなわなのかもしません。

今日はKさんから、「日本の歴史」憲法施行のころと「日本の国宝」のグラビア本、史資料など送って頂きました。元気でおられるのがお便りからわかつてうれしいです。体調はどうなのでしょうか。10年前の面会の優しい姿が浮かびます。

「ブチの大通り」126号、受けとりました。表紙の花のコピーがステキです。智子先生の九月の海から三首選びました。“寂しくて見ておるかもめ夕ぐれの水につくとき美しかりき”“秋日つよく牡蠣貝塚にあたりゐき帰るゆふべはただほの白く”静謐な海辺の秋を描き味わっています。“陽ざしつよく白きコスモスひとつ咲き下獄を前にきみの父の訃”この歌も好きです。「ブチの大通り」これから読むところですが、「10月10日響かせ合おう死刑廃止の声 2020の世界死刑廃止デー企画の集い」が四谷区民ホールであると載っています。

10月6日 学術会議任命問題は国民的議論になってほしい。国家主義の強権に歯止めを!と。でもきっとSNSなどで日本会議などが蠢いているのでしょうか。今日、自民党の船田元氏のメルマガについて、新聞で知りました。船田氏は任命さ



あ
よ
う
り
草
の
花

れなかつた六人の共通点として、「組織犯罪処罰法や平和安全法制特定秘密保護法など、国の重要政策に反対の意思表示を行った」とことと指摘し「任命拒否の背景が透けてみえる」「『反対するということになる』と抑止効果を狙ったものとしか思えない」として、「明らかに法の解釈の『変更』だ」と批判。事前に国会などでも説明がなかったとして「結果として闇討ちのような形になった」と指摘しています。「税金を10億円学術会議に払っているから」と政府は言うが、税金を払う人は政府に賛成の人ばかりではない。反対でも払う義務がある以上、反対意見の排除は国家政府の「民主的」な国ではありえない。「総合的」「俯瞰的」といういいかげんな抽象概念で反対意見を葬ろうとしていることは、みえみえ。黒川検事問題の時のように、良識がSNSでも広がることを願っています。

10月9日 今日は工場出勤時9月分の報奨金伝えられました。695.6円で696円です。“塵も積もれば山となる”とも言えない程ですが、少しずつ山となっていくでしょう。

今日は校正などの作業がなく、今週末は空いたので短歌を読んでみたり（「月光」歌詞）、「フォーリンアフェアーズ」を読みそうです。フォーリンアフェアーズにピケティの新しい本への批評が載っています。日本語タイトルは「資本主義後の社会経済システム—ピケティ提言の問題点」で、前インド政府首席経済顧問のアルビンド・サブラマニアンが論じています。その論から読みとると「21世紀の資本」の続編として「資本とイデオロギー」というタイトルのピケティの新本です。前著では資本の配当が経済全体の成長を上回る「資本収益率>経済成長率」という不等式を前提として論じたが、続編ではピケティは逆転させて「企業や個人の選択次第で運命は変化する」として、「資本の配当を左右するのはテクノロジーではなく政治であり、政治が格差を引き起こす主犯」と捉え、格差、不平等を世界史的に分析しながら、大胆な提言を行っているとのこと。提言は私有財産制を永続的に廃止すること。資本主義に変わる選択肢として「すべての市民は25歳に達すると、社会の平均的富の約60%に相当する資本を与えら

れる。財源は『富、所得、相続に対する累進課税』によって賄われる。資本を得た若者は『住宅を買ったり、事業を始めたり』と新しい可能性を感じながら人生をスタートさせる。こうすれば過剰な貯蓄は生きている間も（富裕税や所得税）、そして死に際しても（相続税を介して）国家によって課税されるため、資本は循環する。ピケティのコンセプトは所有ではない。……「カストディリズム（管理継承主義）」を重視している。これが資本についてのピケティの目標であり、富の移転が家族内ではなく、市民と国家の間で行われるという点で、現状とは決定的に違う。」と執筆者。摘んだポイントなので、十分理解できませんが、不平等格差を生む資本主義の変革の、政治による大胆な組み替え、革命を提言しているらしいのです。

10月12日 午前中に和尚の法要面会。この日は739年前日蓮上人が逝去された「御会式法要」とのこと。新井進兄四十九日法要を兼ね、私も西浦さんら10月に逝去された友人たちと一緒に法要しました。

10月15日 今日は、午後、作業の時突然こう告げられました。「コロナとインフルエンザの流行も考え、ここは病院なので4月の時のように緊急事態期間と同じような措置をとることになりました。については現在の小法師・達磨製作は中止。各自が居室でこれまでと同じスケジュール、作業着替えも行い、9:00～3:00の懲役作業を行う」とのこと。作業は達磨の紙型をつくる以前の作業で、紙を（10センチ程のもので厚手）やわらかく揉んで4層にはがし、それを5ミリ以下にちぎって綿のように小さくする作業のこと。まだよくイメージは湧きませんが、これまでの好奇心とはぐつと違う作業でがっかりです。9:00～3:00の懲役は続くのですが、個別居室で行い、いつから工場に戻るのは未定とのこと。この施設でコロナが出たのか……と思つたりしましたが、わかりません。面会について4月のように中止か?と尋ねると、今のところそれはないようです。

デジカメ歌人からのお便り、寒露の写真はツリガネニンジン、キヨウ科の花。なつかしくみと

れます。父と野草を摘み、植物採集する時、かならずこのつりがね草大切に摘みました。きれいな花で昔を思いました。宮沢賢治はこの花の鐘を「カン、カン、カンカココ、カンコカンカン」と記していること。齊藤茂吉は見逃したこの花を惜しんで“日もすがらさ霧ひまなく押して居り釣鐘草の花も過ぎつつ”と詠んだと、デジカメ歌人の博識に教えられました。晩秋です。

10月16日 今日からダルマ（起き上がり小法師）製作に替えて「紙千切り作業」に入りました。普通のボール紙の余り（切りとてのこった端っこなど）が素材。それが幅1センチから3センチ位、長さ5センチから10センチ程。その一片をくりかえし揉むと柔らかくなり、何層もの紙の繊維がボール紙の厚みから分離されます。それを4層以上にはがします。そのはがして薄くなった紙の繊維を指先で5ミリ以下に千切って綿のようにするのが「紙千切り作業」です。担当官は、これは、ダルマの紙型を作るための作業と説明しました。私は近所に紙型を作る工場があり知っています。それは、ダルマの粗雑な紙型に、綿のような5ミリ以下の千切り紙である必要はありません。むしろ紙片のまま裁断脱色煮たて糊を入れ金型で作るもの。私は実物を見、説明を受けたところで言いました。「これは精神病院などで精神疾患の人がやらされる“作業療法”ではありませんか。何故、私が懲役としてこれを強いられるのか?『ダルマの紙型』というが、あの粗雑な紙型に5ミリ以下の綿状なものが必要だと思いますか?私は紙型作りの工程もよく知っています。作業療法で作られた綿を捨てずにボール紙片と一緒に紙型に利用しているとしても、それは、5ミリ以下が必要なためではありません。『コロナ・インフルエンザの緊急事態の4月同様の措置のためダルマ作業を中止し、身体フロー工場を無期限に閉じる』と言つたが、緊張感は特に無く、ダルマ作業中段の口実のようにみえる。教官共々和気あいあい意欲的に楽しんでいたダルマ作業では、教育効果がないという上からの判断なのか?とにかく精神病療法の強制は納得できない」と言いました。「緊急事態であり、個室作業はこれしかない」という返事し

かありませんでした。一日やってみましたが5ミリの綿をボール紙片一つから作るのに指先を爪で押しつつ自傷行為を強いられます。1・2時間ならまだしも4時間以上すぎると両手の人差指、親指が熱をもち痛みズキズキしました。ダルマ制作には、「作業療法」としてやっているグループもありましたが、だからといって、ダルマ中止だからと、作業療法の治療を押し付けられるのは不当です。それに1センチから3センチ位の紙千切りではなく、5ミリというのがひどい。昔の療法です。指先の自傷行為となり今では、この「紙千切り5ミリ以下」は、やっていないのではないかと思います。人権問題でしょう。

10月19日 朝、「センター長への苦情申し出」のための書類をもらいました。平成監獄法（「刑事収容施設及び被収容者の処遇に関する法律」のこと）の168条に「苦情」申し立てができると記されているからです。あまり期待できませんが、「紙千切り作業」について述べたいからです。もしされがだめなら、紙千切り作業が中止されるまで、納得できるまで、公判含めて考えざるを得ません。

「指のプロテクターをほしい」と朝話し「一日やってみたが、自傷行為を強いる虐待では？」と言ったのですが、「ここでは個別作業みんなこれだけ」とのことです。「5ミリ以下なんて自傷なしにムリでしょう？」私が「昔1センチから3センチ位の紙千切り作業を精神病院で知ってるけど、それより小さい5ミリはひどい」と言ったら、「傷つけないで！プロテクターは準備します。5ミリがムリなら1センチでもいい」とのこと。1センチでいいの？何のこっちゃ……。とにかくプロテクター（と言ってもバンソウコウ。医療用テープ）を指に巻いて2日目の作業開始です。そのうち職人のようにタコができて痛みが治まるかも。「1センチでもいい」と言われると、私だけのためではなく、この作業を強いられている人々、実際、作業療法の人にこそ、そうしてあげてほしい。拒めば懲罰なのでみな黙っているけれど。今どき、5ミリ以下の紙千切り作業4時間以上は、虐待として世間では、許されていないはず。

10月21日 今日、午後、「センター長への苦情

申し立て」に対しての「聴き取り」が行われました。いつもの処遇統括の穏やかな人。「10月16日から新しい懲役作業になったが、その作業は、私も知っていますが、精神障害者に対する作業療法の一つです。懲役の義務労働が、精神病療法強制には納得できないです。また、私自身作業していますが5ミリ以下に紙千切りをすると指の腹を爪立てで押すので、痛みます。自傷行為を強いいるこうした懲役は、また作業療法であっても許されないと思います。国連の『被拘留者処遇最低基準原則』71条では『刑務作業は苦痛を与えるものであってはならない』と決められています。作業療法としても一、二時間で、4時間以上も強いるのは、おかしいしました、作業療法でも1センチから3センチ位の紙千切りが普通で、5ミリ以下は自傷行為を伴うものです。こうした作業はやめてほしい。まだ懲役用の個別労働が準備されていないなら、ダルマ作業の第一段階を（のりとプラスチックを使用）個室でやりたいと思っています」といったことを伝えました。きっと今は5ミリの千切り作業は、日本の刑務所だけでは……。

10月28日 今日はフリースのジャンパーを着てベランダ運動に行ったら、暑くて下着まで汗びっしょり。以前はジャンパーを脱いでもOKだったのに、担当の若い人は「確認していない」と脱ぐのを許可せず。今日団扇ひきあげ、カーディガン、半袖作業着もひきあげて、11月から本格的に冬暦に入ります。

Mさんのお便りと写真を受け取り、関西の様子がよく分かってニンマリしながらの夜です。10・18の円山集会のプレ企画も素晴らしいものだったようです。鶴飼哲さん藤原辰史さんの講演で、生産性効率重視、地球環境破壊の社会を厳しく問う、未来を探るものとして「自治」ということを印象づけられた集会だったとのことです。欧州では新左翼運動の総括として、早くから環境・自治を求めて蓄積し、それを体制内政党として政権を射程に入れて活動していました。当事者、自己決定、自治、自決、自衛はパレスチナ難民キャンプで学んでいた人もいます。本当の「主権在民」の力を国家主義的新自由主義の菅政権に実体としてつきつけていく時代に入ったと、コロナでは改

めて思います。「さわさわ旗」のみごとなショットも！「変えよう！日本と世界」の横断幕共々、今年の10・18がとても伝わります。旗と旗持ちに感謝しつつ、この集いの由来を考えたりしています。

「死刑と人権」と資料、「救援川柳句集」も受け取りました。川柳は機転が必要で難しそう。でも学習しつつ読んでみます。

10月29日 今日大谷弁護士に、この自傷行為を強いる懲役作業について法務大臣への申し出や国家賠償公判などを考えている旨手紙、「新しい懲役紙千切り作業について——報告その1」を送りました。この作業が中止されるまで、納得いくまで争わざるを得ません。本当は貴重な時間をそんなことに使いたくはないのですが。大谷先生はかつての公判のように共に闘ってくれるはずです。

10月30日 昨日の紙千切りで指先を親指の爪で繰り返し押すのがたたって、右手甲から腕へと痛み、診察を要請しました。このまま腕へと広がり、前にあったように両腕が挙らなくなるのは？と気にしたことと、湿布など何かないか相談したかったためです。腱鞘炎でダルマ作業で右手の甲が痛んでいたものです。Drは手を休ませた方が良いと言い、付添の係官は横から「手休ませるなら右手で字書くのも禁止すべきだ」と言いました。私自身「苦情申し立て」をしている以上、休む気はないし、字を書くのを止めることはできないと言いました。結局今日金曜日は一日作業を休み、土日があるので様子を見ましょうということになりました。

11月4日 今日9時からの紙千切り作業の材料を待っていたら「今日からダルマ作業に戻ります。ただし水入れ、スポンジ、布類とダルマを入れますので、これで作業して下さい」とのこと。急遽転換した上で「糊や、固めるゴリ棒やプラスチックは不可。入れられないでの、その範囲での作業をして下さい。」とのこと。とりあえず紙千切り作業は廃止となりホッとしました。ダルマは他のグループがたくさん不良品をつくり、私たち「身体フォロー工場」が「修正します」と引き受けたものです。その作業の一つとして、不良



品のペニキはがし、おもりのバランスを正す粘土削りなど、水とスポンジでの作業となりました。

「苦情申し出」に対応してくれたようですが、まだ何も返答はありませんが。

Kさんのお便りは優雅なオフホワイトのようなドライフラワーの美しい写真。蘭の花？百合の花？これはジンジャー（生姜）の花！こうして花を盛り合わせると見違えるような花姿です。土の傍らに低く咲いているのを、こうしてみごとな花束にすると、何と美しいのでしょうか。早速写真立てに。

11月6日 ダルマ個室作業中の午後2時過ぎ、処遇課より「告知があります」とことで、作業中断で拝聴。「あなたが10月20日当センター長への苦情申し立てを行った件について回答します。

2点覚えてますね？一点目『紙千切り作業は精神疾患の作業療法で、それを懲役作業で強いるのは納得できない』不決定。自己の考えを述べたに過ぎない。二点目『紙千切り作業は自傷行為を強いるもの、やめてほしい（せいぜい4時間でなく2時間程度が作業療法の人にも）』不決定。自己の考えと希望を述べたに過ぎない。以上」とのこと。まあ、そういう回答とは思っていました。でも實際には紙千切り作業はなくなっています。3時半頃、担当官の人から「来週月曜日から身体フォロー工場でダルマ作業再開になります」と通知。なんのこっちゃですが、まあ、工場で作業ができるのは喜ばしいことです。

11月8日 2000年に逮捕されてから20年目の11月8日を迎えました。もう20年も過ぎたのか、不思議な思いです。最初の10年は裁判で検察の一方的シナリオに対決しつつ過ぎました。その間09年から癌の手術と抗癌剤治療が続き、4回開腹手術をして9ヵ所の癌を摘出。今では目も耳も歯も劣化しつつ、気持ちは一層前向きです。これは逮捕以来20年、今も変わらず支えて下さっている友人たち家族たちの心が私に力を与えてくれるためです。この20年、上田等さん、ウニタの遠藤さん、宮崎先生ら師のような先輩から、丸岡さん、西浦さんら近い友人たちまで、たくさんの再会を約した人々と会えず彼岸に送りました。私の逮捕によって被害を与えた方々に謝罪しつつ、心新たに派出所をめざし、お詫びとお礼・感謝と乾杯を夢想しています。

“二十年目逮捕記念日目眩めく喜怒哀楽を抱きて立てり”

11月9日 今朝から「身体フォロー工場」が再開されました。「新しい懲役『紙千切り作業について』10/29~11/9 報告その2」に代えて概説すると、10月16日に新しい紙千切り作業が始まりました。すでに「報告その1」で述べたように、この作業に対して10月20日「センター長への苦情申し出」を行ない、10月21日にその「苦情の聞き取り」が行われました。私は10月29日に大谷弁護士宛に「報告その1」を発信しました。(そこでは第1にはじめに、第2に経緯、第3に紙千切り作業について、第4に苦情申し出を行なったことを記しました)。その後紙千切り作業による指先の酷使と前からの腱鞘炎で右手が動かないで診療を10月30日に受け、この30日(金)の作業を休みました。休み明けの11月4日「今日から紙千切り作業は中止。ダルマ作業に戻ります。ただし個室のため材料は水入れ、布、スポンジとダルマのみ」とのこと、不良品のペンキ落としなどの作業に入りました。11月6日には告知があり、センター長への苦情申し立て2点は「不決定」と通知されました(日記に記したとおり)。その後、午後「11月9日月曜から身体フォロー工場でのダルマ作業再開となる」と告げられました。センター長への「苦情申し立て」は受け入れられませんでしたが、実際上「紙千切り作業」は廃止されました。以上から、考えていた「不服申し立て」の手続きなど(大谷弁護士に相談したのですが)そのことは一旦とりやめたいと思います。理由は実際上は既に復したことと、これ以上それにエネルギーを注力したくないこと、11・8の20年を迎える前に社会復帰へと日々過ごしたいと思っていました。新しい懲役のあり方を心配し、支えてくださった友人たちに感謝し、前向きに自分の執筆など作業も進めます。昨日バイデンの中東政策について書いたので今日送るところです。

トランプ時代からバイデン時代へ 米国の中東政策について

重信 房子

米国時間の11月7日(日本時間8日)、米国のメディアはやっとジョー・バイデンの大統領当選が確実になったと報じた。コロナ禍下の大統領選の接戦を制して、ジョー・バイデンが第46代大統領に就任することになる。もっとも、トランプ側の裁判による異議申し立ては続くらしい。4年間に亘るドナルド・トランプの振る舞いにも拘わらず、それを支持する米国民の多さに米国の本質矛盾——差別と分断——の歴史と現実を改めて知らされる思いであった。露わになったこの米国

弁護士宛に「報告その1」を発信しました。(そこでは第1にはじめに、第2に経緯、第3に紙千切り作業について、第4に苦情申し出を行なったことを記しました)。その後紙千切り作業による指先の酷使と前からの腱鞘炎で右手が動かないで診療を10月30日に受け、この30日(金)の作業を休みました。休み明けの11月4日「今日から紙千切り作業は中止。ダルマ作業に戻ります。ただし個室のため材料は水入れ、布、スポンジとダルマのみ」とのこと、不良品のペンキ落としなどの作業に入りました。11月6日には告知があり、センター長への苦情申し立て2点は「不決定」と通知されました(日記に記したとおり)。その後、午後「11月9日月曜から身体フォロー工場でのダルマ作業再開となる」と告げられました。センター長への「苦情申し立て」は受け入れられませんでしたが、実際上「紙千切り作業」は廃止されました。以上から、考えていた「不服申し立て」の手続きなど(大谷弁護士に相談したのですが)そのことは一旦とりやめたいと思います。理由は実際上は既に復したことと、これ以上それにエネルギーを注力したくないこと、11・8の20年を迎える前に社会復帰へと日々過ごしたいと思っていました。新しい懲役のあり方を心配し、支えてくださった友人たちに感謝し、前向きに自分の執筆など作業も進めます。昨日バイデンの中東政策について書いたので今日送るところです。

1 バイデンは2020年3月号のフォーリンアフエアーズに、大統領として自らがめざす方向を述べている。「アメリカのリーダーシップと同盟関係

——トランプ後の米外交政策にむけて」という論説である。その貫く論旨は「米国が主導する世界秩序を再構築すべきだ」にある。気候変動、大規模な人の移動、テクノロジーが引き起こす混乱から感染症に至るまで、トランプ政権がグローバルな課題に対処し得ていないと断じている。トランプは友人か敵か区別も無く無分別に貿易戦争やデイールをしかけ、リーダーシップをどううとする。「もっとも深刻なのは、われわれの国に力を与え、市民を統合していく作用をもつ民主的価値に背に向いていることだ」と批判している。そして「私は大統領として」と、次のようなプランを述べている。

第一に米国の民主主義と同盟関係の刷新によって、米国の主導する世界を再構築する。「民主国家のためのグローバルサミット」などもあげている。トランプは同盟関係を金銭問題の議論にしたが、米国の安全保障はまずディールではなく、外交にもとづく「神聖なもの、リベラルな民主的理念を守る防波堤」であるとしている。

第二は国民の民主主義の刷新を掲げている。国際社会の進展を促す米国的能力は国内に根差すとして、人種・場所に左右されない教育システムの刷新、格差を無くし、刑務所人口を減らすための刑事司法制度改革、投票上の差別を無くすための投票権法の復活、政府の透明性と説明責任の復活、有害な政策を終わらせ、入国禁止措置を解除し、弱い立場にある人々の一時的保護資格制度を見直し、12万5千人の難民受け入れの着手、拷問禁止、米軍の活動の透明性(情報公開)復活、神聖な投票権の保護と保障、司法の独立など、就任一年目から着手するとしている。なぜなら「民主主義は米国社会の基盤であり、パワーの源泉である」「大統領としてわれわれの『基層価値』刷新のための抜本的措置をとる」としている。

第三には人権の促進、第四には外交政策における同盟関係の強化と「パリ協定」を発効させ、気候変動や新テクノロジーへのアプローチと5GやAIなど未来のテクノロジーへの民主化、「イラン合意」にたちかえること、朝鮮半島「非核化」などをあげている。この論説の執筆時期はトランプ和平案発表以前と思われるが、中東問題ではバイデンも親イスラエルの立場にあるため、トラン

の中東政策には多く触れていない。バイデンがそこで表明しているのは、「イラン核合意」への復帰とサウジアラビアのイエメン介入戦争への支援の停止のみであった。

2 バイデンはオバマ政権の副大統領として、基本政策を推進してきたし、オバマ路線を踏襲しようとしているので、オバマ政権の中東政策はどのようなものであったかを捉え返してみたい。2009年に政権に就いたオバマ大統領は、ブッシュ政権の反テロ戦争の負の遺産を清算するとして大規模軍事関与を減らし、米国の国益と安全保障は外交を基本とする立場をとるとした。アフガン、イラクからの米軍の撤退と紛争解決、そして停滯していたパレスチナ・イスラエルの和平交渉の進展をめざした。イランに対しても軍事オプションやイスラエルのイランに対する核施設破壊などの単独行動を排した解決を模索した。そして議会やイスラエルロビー、ネオコンの反対を押し切ってイランへの査察など厳密化を図りながら、二期目にケリー国務長官のもとでイランとの「核合意」を成立させた。

「アラブの春」ではムバラク大統領を切り捨て、民意によって選ばれたムスリム同胞団のムル西イ政権支持にまわったが、軍事クーデターによってシーシが政権を握ると当初シーシ政権を批判し、援助凍結を行った。しかし、イスラエルがシーシ政権支持の意向を表明するとそれを受け、なし崩しにシーシ政権を認めていった。またヒラリー・クリントン国務長官イニシアチブでリビアに介入し、カダフィー殺害を主導したのもオバマ政権である。シリア介入には慎重姿勢を崩さず、2013年にはアサド政権の「化学兵器使用」を断定して極度の緊張に至ったが、ロシア側提案を受け、シリアの「化学兵器物資」の国連管理とシリアからのその撤去によって危機を回避した。この「イラン合意」と「シリアへの不介入」はイスラエル、サウジアラビアらの反発と不満を増大させた。そしてその後のIS登場に米軍主導の軍事介入を拡大したのもオバマ政権である。ウサマ・ビンラーディンの殺害以前から、オバマ政権は米軍兵士の死傷を避けて特殊部隊とドローン攻撃を年々拡大し、オバマ政権の戦争政策は現地住民の

殺害と難民化、犠牲の上に反IS戦争を続けていった。

また、オバマ政権の「二国家共存」をめざす中東和平交渉は、ネタニヤフ首相の妨害に幾度も中断させられてきた。ネタニヤフが入植地建設活動を続けるために、パレスチナ側が交渉テーブルにつけず、米国の圧力と介入で入植活動停止を一時的に実現してもネタニヤフ政権は再三再開し、交渉妨害をくり返したためである。2016年の大統領選において民主党候補のヒラリー・クリントン勝利のためと、米上院議員100人中83人がイスラエルへの軍事援助の拡大を求めてオバマ大統領に書簡を送ったこともあって、オバマ大統領はこれまでの年間31億ドルの軍事援助を大幅に増やした。米国史上、二国間軍事支援の最高額、2018年から10年間で380億ドルに及ぶ援助額である。しかしヒラリー・クリントンはトランプに敗れ、民主党は政権を明け渡すことになった。その期に及んで、オバマ政権はこれまで拒否権行使し葬ってきた「入植活動の即時停止を求める安保理決議案」に初めて棄権した。米国が棄権し拒否権行使しなかつたので、2016年12月23日決議案は賛成14棄権1で採択された。「イスラエルの入植活動は法的正当性もなく、国際法の重大な違反であり、イスラエルとパレスチナの二国家解決の実現を危機にさらしている」と決議は述べている。そして「東エルサレムを含むパレスチナの占領地すべての入植活動をただちに全面的に停止すること」を決議は求めたのである。加えてもう任期最後の12月28日に、ケリー国務長官はイスラエルを厳しく批判した。「もし一国解決を選ぶなら、イスラエルはユダヤ国家か民主国家（つまりパレスチナ人も対等な権利をもつ）のどちらかだ。そ



の両方があり得ない。いつまでたってもイスラエルが平和の内に生きることは不可能だ」と述べた。イスラエルロビーに制約された民主党とその議員たちのために、イスラエル保護第一で「拒否権」行使してきたオバマ政権も、最後になって、影響を受けない条件で、やっと最初で最後の正当な意見を述べたのである。

3 こうしたオバマの中東政策を踏襲するバイデン政権にとって、親イスラエルの立場にあっても、大きな障害は、やはり第一にイスラエル政府である。すでに入植活動をイスラエル国家基本法でも奨励し、トランプ政権によって、西岸入植地併合、シリア領占領地のゴラン併合までゴーサインを得て来た。再び「二国家共存」の国連・国際法に則った和平交渉に対してどう踏み出せるだろうか。すでにイスラエル国内法で入植問題を処理することを承認したトランプ政権の政策の転換から問われる。副大統領に指名されたハリスは、親イスラエルを表明することで、イスラエルロビーの支援も受けてきて上院議員となった人物であり、どこまでイスラエルとの対立矛盾を克服出来るのか？ PFLPは声明で「バイデンの勝利はパレスチナ人の権利に関する根本的变化はもたらさない」と、すでに幻想への警鐘を発している。

そして「イラン核合意問題」である。オバマは2016年最後の「一般教書演説」で、『イラン合意』、キューバとの国交再開、「パリ協定CO21」が米主導で合意したことを誇り、また経済を復調させたことをふまえTPPの批准を求めて、排外主義的傾向の勃興に警鐘を鳴らしてきた。しかしそれらはトランプの4年の政権運営で反古にされた。これらをバイデンは再びめざすとしている。ハマースのハニヤ政治局長は『世紀の取り引き』の米中東和平案と、エルサレムの大使館移転は国際的決議に反し、反対されている」として、それらの行動を取りやめるようバイデン政権に求めている。

すでにポストトランプを見据えたイスラエル政府の戦略思考は、トランプと利益を分かちあい、トランプ政権を介して強引にUAE、バーレーン、スー丹との国交樹立を実現した（この国交樹立をバイデンはもちろん歓迎している）。イスラエル

政府はイランとの核合意に戻るのを反対しつつそれを見越して、イスラエルを中心とする「反イラン中東秩序」を米国バイデン政権と相対的独自に推し進めようとするだろう。サウジ・UAEは「イラン脅威」で、すでに米国のみならずイスラエルの諜報・防諜・軍事情報技術に依存しており、「イラン核合意反対」の動きを加速させるだろう。とは言っても、当時のオバマ政権のスタッフが再び核合意交渉に関わる限り、イスラエル側は妨害は出来ても阻止出来ない。トランプとは違うのである。

サウジは困難な局面を迎えるだろう。コロナ禍、石油価格の下落、世界のエネルギー政策転換で「ビジョン2030」の新自由主義経済計画は変更を余儀なくされている。加えて「カシヨギ問題」や前皇太子らの逮捕所在不明問題など、米議会で民主党議員中心に人権問題で追及されてきた。（この追及の中心に、カマラ・ハリス上院議員が居た。）トランプ政権の時のように「ディール」金だけで解決出来ないばかりか、サウジへの武器輸出にも批判が出されてきた。それらの問題が再びクローズアップされれば、サウジアラビアとしては、再び「アラブの大義」という破れた衣装で装うのか、イスラエルと公然と国交を結ぶのか、いずれ問われるだろう。サルマーン父王が存命中は「二聖都の守護の立場」からイスラーム諸国の合意なしにイスラエルとの国交樹立はむずかしいようだ。しかし息子のムハンマド・ビン・サルマーン(MBS)は逆に危機感から無茶をする可能性があり、どうなるか注目される。

また、トルコも対ロシア問題・人権問題などで、バイデン政権と矛盾を抱えるだろう。中東のプレーヤー、ロシア、トルコ、イランの国家外交、加えてイスラエルの動向の中で、トランプ政権は中東でのイニシアチブを失ってきた。バイデン政権の中東政策は注視されている。はっきり言えることは、米国は「イラン核合意」復帰と中東和平への「公正な仲介」なしに、最早中東地域で大きな影響行使することは出来ないだろう。そしてそれは、イスラエル政権との矛盾を抱えることになる。

4 パレスチナはトランプの退場をパレスチナ自

治政府中心に歓迎し、「二国家解決案」に向けた和平交渉再開を心待ちしているだろう。もちろん、トランプ政権のイスラエルによる西岸地区の併合支持よりも、バイデン政権はパレスチナ側にとつては明るい条件が生まれるかもしれない。

ただし、オバマ政権がそうであったように、米国の親イスラエル政策の範囲でのパレスチナ支援である。まずオバマ政権のように3条件（イスラエルの国としての承認、武装解除、過去の決議の承認）を求めるこによって、ハマース排除の流れが再び形成されるだろう。この間、トランプ政権の「中東和平案」中東政策のあまりの理不尽な内容に、アバース大統領らも拒絶せざるを得なかつた。その結果、必然的にパレスチナ全民族的団結が火急の課題として人民の側から強く求められ、その話合いは続いている。アバース大統領らのPLO・自治政府は、バイデン政権に期待と幻想も含めて、「二国解決案」の復権をめざすだろう。それは政治的まきかえしの闘いとして有効性はある。しかし、その決定要因は、米国政府ではなく、イスラエル政府にあるというのが現実である。

トランプの退場は、イスラエル内の労働党勢力やパレスチナ・アラブ勢力にも反ネタニヤフの新しい流れが生れる可能性も増大するだろう。こうした中で政治戦を闘いぬく唯一の道は「パレスチナ側の統一」に他ならない。そしてまた「アラブの春」の民衆の要求は一向に解決されておらず、アラブ各国の民衆のマグマは消えていない。況アラブの民衆と一体となったパレスチナの権利、反占領の闘いを再び求める闘い方こそ問われてくるに違いない。

11月8日記

151号の誤植の訂正とお詫び

9頁左列下から19行目 クララ婦人→クララ夫人

10頁左列下から16行目 感謝→感謝

11頁左列下から15行目 指導非記録→指導日記録

13頁右列下から12行目 シュアファースト

→シュアファート

19頁左列5~6行目 「虐殺・迫害などの民族浄化に晒され難民化したパレ」欠落。

19頁右列中段 英文6行削除

関西の政治運動情況—「あらゆる事態に用意ある」活動を！

岩田吾郎(WEBリベラシオン社)

①「大阪都構想」の否決—住民投票の意義と課題

11月1日大阪維新的会が推進した「大阪都構想」の住民投票が、賛成 675,829 (49.37%)、反対 692,996 (50.63%) で否決された。前回15年の投票は賛成 694,844 (49.62%)、反対 705,585 (50.38%) であるから、同様の僅差であるが、否決は否決である。投票の分析は、出口調査も含めて、各地区別、世代別、所得別等々、いわゆる階級階層分析も駆使してメディア等でなされている。大阪市在住の私としての感想は、維新的会は過信、驕りが今回あった事である。公明党が支持に回り、大阪府市の議会でも多数派になり、かつ関西の各市町村の選挙でも維新派議員の当選が席巻していた。この二点で維新的会は過信したと思われる。後半は、松井、吉村自らが街頭宣伝を行い、サポータも総動員し賛成を訴えていた。今後、維新的会は一定後退すると思われるが、49.37% (20年)、49.62% (15年) と盤石の支持層が存在している事、又反対派はいわゆる「野合」であった事から、我々も過信せず、今後とも維新的会との闘いは不可欠である。

「大阪都構想」住民投票の争点は、①経済的利益か不利益か(損得)、②「大阪市」の存続か否かであった。この主張が一定の反対派勝利の要因であった。しかし、その背景を考えて見れば、維新的会の主張は、「二重行政」の廃止、舞洲再開発・カジノ誘致等々の成長戦略であり、新自由主義そのものである。その過程で「古い資本主義」体制、行政等の「維新」(革命)を訴えている。他方、反対派はどうしても「防衛」「維持」の主張に留まっていた。何れにしても反対派の「共闘」は終焉した。古い資本主義の維持、防衛では無く、又新自由主義でも無く、資本主義に代わる新しい社会を展望する事が問われている。

自民党大阪府連の反対活動も目立ったが、野党(立憲民主党、社民党、新社会党、れいわ新選組、日本共産党)も各党の指導的メンバーの街頭演説、街宣カー情宣、戸別チラシ配布等々の総力戦であ

った。しかも、労働組合、市民運動団体も含めて、各地区の分担、分業が行われた組織戦でもあった。政党だけで無く、連帯労組、全港湾、全労協、全労連等の組合の街宣車での街宣活動を展開した。さらに、新旧の市民運動団体も復活も含めて反対活動を展開した。

議会政党と労働組合、市民運動団体の「ボーダレス」化の共闘が生まれていた。議会か街頭(職場)かと言う二項対立を克服する端緒を生み出したと思われる。安倍自民・公明連立政権の長期性、反動性等々は様々に批判されて来た。ただし、菅「自民・公明」連立政権を打倒し、政権交代を実現するには、国政選挙で多数派になるしか無いと言う、現在の政治攻防も直視する必要がある。現に戦後日本でも政権交代は在った。その内容云々は別として1947年社会党・民主党・国民協同党片山連立内閣が在ったし、近々では09年民主党政権も生み出している。だから「全野党共闘」は不可欠であり、その成立の条件を今回「大阪都構想」反対活動は生み出していたと思われる。ただし、この政権交代の延長上(民主連合政府)に、資本主義社会では無い新しい社会を展望する事は疑問である、これは同時に街頭闘争にも言える事である。しかし、社会運動も含めて、あらゆる我々の闘いが、新しい社会と世界を生み出す根拠でもある。

②菅「自民・公明連立政権」打倒と「全野党共闘」

安倍政権に反対する政治闘争は、首都圏・全国と同様に、14年の「戦争をさせない1000人委員会」と「戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動」(戦争をさせない1000人委員会、解釈で憲法9条を壊すな! 実行委員会、戦争する国づくりトップ! 憲法を守り・いかす共同センター)結成以来、関西でもこの枠組で5月、11月大阪、京都、滋賀、兵庫の各地区で約5000人規模の集会・デモが行われている。日本共産党が主力の実体であるが、「野党」の参加と新左翼系の団体も合流して

いる。政治的に「ボーダレス」化も進行し、日共も「トロッキスト」「極左暴力集団」云々の批判はしていない。参加者の増減と問題もあるが、リベラルも含めて現在の「左翼」の政治闘争を代表している。

総選挙・議会と言った場合、現在では「全野党共闘」の成立が不可欠である事は誰もが認める事である。左翼の街頭政治闘争の持続は、野党再編成を促している。国民民主党、社民党の立憲民主党への合流(ただし、各々は解党せず残存させるとの事)が生まれている。社民党は11月臨時大会で、立憲民主党への各府連・県連、議員の合流を承認するとしている。既に関西では、京都府連、兵庫県連が合流予定である。大阪は、社民党が残存し、9月プラットホームとして「ともに生きよう近畿」(呼びかけ人: 加来洋八郎/佐々木道博/新開純也/辻恵/服部良一/山岸飛鳥/山下けいき/山元一英)が結成され、社民党、新社会党、れいわ新選組、労働党等も参加している。

③新たなる左派の共同行動の展望

関西の政治闘争の情況を俯瞰すれば、大阪・関西共同行動、京都・反戦共同行動と言う、新左翼系の政治勢力が大きくある事である。ここが首都圏と違う点である。首都圏と同様に、戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動系は約5000人を結集している。他方新左翼系は、十数年の増減があったが、現在は500~800人である。ただし、野党各政党も旗を掲げ大阪と京都の集会に参加して居る。大阪と京都の共同行動は、野党(議会政党)も注視する政治勢力である。

関西共同行動は、81年6.15 安保つぶせ・日韓連帯・反徴兵・改憲阻止集会で結成され、99年「周辺事態法の廃案と戦争協力をしないさせない関西集会」(しないさせない「戦争協力」関西ネットワーク)に発展した。続いて05年「ためよう改憲! おおさかネットワーク(全労協・全港湾・連帯労組他)が結成された。その後08年 戦争あかん! 基地いらん! 関西のつどい(大阪)が毎年2回開催され、約40年の歴史を持つ。87年総評解散、連合結成以降、旧総評系労働組合(主に旧自治労、日教組系)は平和人権センターを結成し、後退したと言え旧総評活動を継続して

いる。「戦争あかん! 基地いらん! 関西のつどい」は、毎年春と秋の2回開催され、基本は上記主要3組織の共同行動であるが、現在は約800名規模である。今日では革共同中央派、マル派を除いたすべての新左翼・旧左翼系の党派、団体参加の共同行動として成長している。

反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都(2007~)は、10月18日京都円山公園野外音楽堂で、第14回反戦・反貧困・反差別共同行動 In 京都が開催された。今年は新型コロナウイルス禍での様々な規制がある中で、約450名が参加しデモを行った。14年を経て様々な問題もあるが、「持続」は政治的力の一つと思われます。07年10・21に開始された共同行動は、当初は60年代の「10・21国際反戦デー」の再現が目指された。「行く秋に衝する“インター”は再開の烽火だろうか」(座談会「紙の爆弾」08年1月号)に当時の指向が記されている。反戦・反貧困・反差別と言う現代に継続するスローガンを掲げ、メインは「このままええの!! 日本と世界」(11年以降「変えよう日本と世界」)であった。シニア左翼と自他ともに言われるが、新左翼系党派、労働組合、市民団体の大衆的政治闘争の再建でもあった。

新左翼系の「共同行動」は、大阪と京都に於いて、参加者の増減はあっても、課題・運動別では無い政治的共同行動が持続している事は、東京等全国とも違う点であろう。この背景、根拠は様々に指摘できるが、「関西」の政治風土一般では無い事を、少し述べたい。反戦共同行動(京都)、関西共同行動(大阪)も、経過と実体は紛れもなく新左翼系共同行動である。70年安保闘争を牽引した三派・八派の新左翼は、70年代以降、狭山・三里塚・沖縄等の課題で共同行動を対立を内包しつつ持続して来た。革マル派との党派闘争と三里塚分裂が決定的に「共同行動」を不成立にした。同時に時代は、87年総評解散、90年東欧・ソ連の解体を経て階級闘争は混迷し、かつ左翼の後退は著しいものになった。ただし、様々な新左翼系の共同行動は、政治課題毎に一日共闘であれ追及されて来た。

2000年に入って、新左翼系党派も再度の分裂、統合の党派再編が起きていた。少なくとも三里塚3・8分裂以降の対立、分裂を経て、全ての

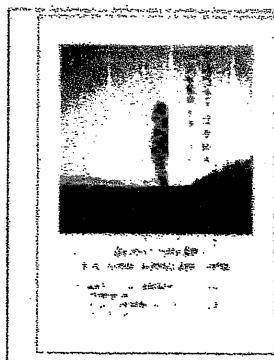
「新左翼」では無いが、再共闘が生まれている。その嚆矢として、19年G20大阪サミット反対闘争は、新左翼系党派の全国闘争として闘われた他、反原発、反天皇制、反オリンピック、沖縄、狹山（部落解放）、Xバンドレーダー、岩国反基地闘争等が持続され闘われている。労働運動は、関西でも最左派であった連帯労組へ大弾圧に対する反対の共同行動も関西圏に拡大している。これらの報告は別途とする。

以上は、「野党」「新左翼」等を俯瞰した状況である。主力は「シニア左翼」である事は否めない。15年に首都圏を始め全国に登場した「シールズ」（自由と民主主義のための緊急行動）の若者たちのその後はである。15年AEQUITAS（エキタス）は、最低賃金￥1500要求等の、活動を労働運動に移しサウンドデモ等の新しい宣伝も行っている。17年「未来のための公共」（19年解散）結成。彼ら多くは民主青年同盟、全労連を選択したようであるが、「新左翼」党派の限界の結果でしかない。他方では、17年以降「梅田解放区」の街宣が、大阪梅田HEPファイブ前で持続的に行われ、又京大、立命館大では学生の活動が展開されている。若者、学生は例え「小さな火花」であれ存在し、登場している。ただし、シニア左翼と若者は、ともすれば世代間対立に陥る傾向がある。今後日本の大衆運動が香港、アメリカ、タイの大衆闘争に呼応の為には、昔風に言えば「労・壯・青」の三結合が求められているのではないか。

④社会主義か？野蛮か？「あらゆる事態に用意ある」活動を！

関西の政治闘争の特徴は、第1に議会政党と新左翼のボーダレス化する共同行動、第2に街頭闘争と選挙闘争（議会）の結合の萌芽と言える。さらに、「労・壯・青」の三結合の端緒とも言える。長期化と盤石のような菅自民・公明連立政権を打倒し政権交代の実現は、現在の政治闘争の緊要の課題である。しかし、その先は？である。

「民主党政権」の限界を越える事が不可欠である。選挙闘争（議会）と街頭闘争、社会運動も含めて、根本的に資本主義社会に代わる新たな社会を構想し、提起する事が求められている。更に現代のグローバル資本主義を打倒し、新たな世界を創るには、プロレタリア国際主義の復権と国際連帯活動が不可欠である。その為には、社会主義のルネサンスが必要であり、大胆に「社会主義か？野蛮か」と提起する事が求められている。同時に選挙闘争（議会）のみによって、階級闘争が結着出来るとは思えない。だから、我々は選挙闘争（議会）に留まらず、将来の「あらゆる事態に用意ある」活動が求められている。（2020年11月9日）



記録集発売！

「反戦・反薬害・反差別共同行動 in 京都」の13カ年の誠いの記録と、その時代・状況に対応してきた取り組みの収録。「光明日まで空を仰ぎ一点の私情なきことを」を作成。
価格：1部 1000円（送料込）
発送：090-5166-1251
(事務局長・石田道史)

後記

外から重信さんへの郵便物は、電報はさすがにその日のうちに届きますが、一般には昭島に届いてから10日くらいかけて、重信さんの元に届けられます。私どもは原稿を受け取り、大急ぎで入力し、それをプリントアウトして重信さんに送っても、重信さんは10日後位にそれを受け取り、当局に許可を取ってから校正し、それを送り返してきます。送り返されてきた赤字の入ったプリントを見て、校正入力して、編集、レイアウトをして、「オリーブの樹」を完成させます。そういう訳で、古い日付の日誌や文章をお届けすることになってしまいます。どうぞご理解ください。この次はもう来年ですね。コロナを退治し、皆様良いお年を！（Y）

重信房子さんへの郵送アドレス 〒196-0035 東京都昭島市もくせいの杜2-1-9 重信房子

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター一気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円